

富田守男 フィールド風 (現場)からの風

今日8月18日は「米の日」。米の字を分解すると「八十八」となり、米作りには八十八の手間がかかると言われている。稲穂が出そ

ろった水田はなぜか心を豊かにしてくれる。

コメ市況調査会社の米穀データーバンクの2023年産の作況指数は、西日本を中心とした日照不足があったが全体として平年並みとし、長野県も平年並みと見込んだ。だが「米」を取り巻く情勢は大きく変わってきている。

世界的食糧危機が現実化。ロシアが穀物輸出合意(黒海を経由する小麦などウクライナ産穀物の輸出合意)から離脱し、中東やアフリカなどで食料危機への懸念が一層高まったこと。エルニーニョな

どの異常気象により世界の穀物の価格が高騰していること。中国東北部(旧満州地域)は中国でのコメ・トウモロコシなどの穀物、大豆などの5分の1以上が生産されている穀倉地

今こそ食料安全保障 について論じよう

昨年、米カルフォルニア州では、深刻な干ばつでコメ生産量が減少、価格が高騰したためカリフォルニア米の価格は日本から輸入されたコメの価格水準と同等となり、日本産米

帯だが大雨により被害が発生。中国共産党の機関紙、人民日報は9万超の農地が被害となり、稲田の水没はもちろん、野菜のビニールハウスが破壊され、食料加工を含む工場も壊れたとの報道だ。

の食味を体験した業者からは、供給量を確保できる日本産米に大きな関心を持っているとの情報もある。すでに有数のコメ輸出国であるベトナムでは、卸売業者によりコメの大量買い付け情報

もある。価格が上昇し国内の需給が崩れ価格高騰し国内インフレ傾向が危惧され、国内での需給が崩れないために、卸業者には一定の在庫確保と同時に、産地の集荷業者から大量の買い付けなどをしないよう自粛を求める対策を求めた。

この世界情勢の中、穀物の6割強を輸入に頼る日本が、農産物の輸出に力を注いでいる時期に、コメなどを輸出して高く売ろうとする業者があっても不思議ではない。生産価格が高騰している状況の中で、コメを高く売ろうとする日本は、特定

の物資を輸出禁止にする手立ては無い。輸出向け出荷を優先すれば、国内の需給が崩れ価格が高騰することは明白だ。今こそ食料安

全保障を基本的に論じて、迅速に対策するべきだろう。
(信州地域社会フォーラム会員・白馬村森上)



自衛隊松本駐屯地司令の秋山伸太郎1等陸佐の防衛講和は安全保障情勢を考える機会でもあった。多くの国民も考える機会が求められている。